

第6学年〇組 社会科学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

1 単元 明治の新しい国づくり

2 本単元の指導にあたって

○児童観

本学級の児童は、信長・秀吉・家康の政治の特色や江戸時代の文化や学問について、今までの時代との変化や、行われたことの意図を比較して考えることを通して、目指した出来事や人物の関連や意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、歴史を学ぶ意味を考える力、考えたことを説明したり、それらをもとに議論したりする力をつけてきた。

本教材では、五か条の御誓文と廃藩置県や身分制度の改革を関連付け、天皇を中心に身分にかかわらず、一つにまとまった新しい国づくりがめざされたことを捉えていく。さらに、地租改正、徴兵令、官営工場の設立などの改革を進めたことを関連させて、明治政府が外国から学び、富国強兵の国を目指した意図を、江戸時代の様子や政策、身分制度等と比較しながら、捉えることができるようにする。このことは、自ら課題を見つけ解決する児童を育てる上でも意義深い。

○教材観

本単元の教材は、黒船の来航、廃藩置県や四民平等などの改革、殖産興業や富国強兵に向けた取り組み、文明開化などの事象を取り上げる。日本が海外に後れをとり、差を埋めるためにどのような改革を行ったのかということ捉えることができるという価値がある。

黒船の来航については、ペリーが率いる米国艦隊の来航をきっかけに日本が開国したことや、江戸幕府の政権返上に伴い、勝海舟と西郷隆盛の話し合いにより江戸城の明け渡しが行われたこと、日本と外国との力の差によって不平等な条約を結ばざるを得なかったことを捉えることで単元を貫く学習課題を設定することができるようにする。

廃藩置県や四民平等などの改革については、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允らの働きによって明治天皇を中心とした新政府がつくられたこと、明治天皇の名による五箇条の御誓文が發布され新政府の方針が示されたこと、明治政府が行った廃藩置県や四民平等などの諸改革によって近代国家としての政治や社会の新たな仕組みが整ったことを捉えることができるようにする。

殖産興業や富国強兵に向けた取り組み、文明開化については、外国に早く追いつくために、進められた改革や、福沢諭吉が欧米の思想を紹介したり、生活の道具を用いられるようになったりすることで、欧米の文化が広く取り入れられて人々の生活が大きく変化したことを捉えることができるようにする。これらのことを手掛かりに、幕末から明治の初めの頃、我が国が明治維新を機に欧米の文化を取り入れて、近代化を進めたことを理解できるようにする。このことは、日本が不平等条約撤廃に向けて進んでいく時代へとつながっていく。

○指導観

本単元の指導においては、時代が変わって、どのような変化があったかを調べることで、近代化が進み、生活様式や政治の仕組みが欧米化していることを捉えさせたい。そのために、江戸時代との違いを比較したり、単元全体の資料をもとに考えをつくったりする活動を構成する。

特に本時では、明治政府が五か条の御誓文を掲げ、天皇中心の新しい国づくりをめざし、国を一つにまとめる政策を行ったことを捉えさせたい。そのために、まず、「三輪スタンダードであう段階」のパターン②「変化の提示」を活用し、江戸時代に「武家諸法度」と明治政府が出した「五カ条の御誓文」の違いから課題設定を行う。次に、「三輪スタンダードつくる段階」では、明治政府が行った新しい改革とその改革を行ったわけを調べ、政府がどのような国づくりをめざしたのかを捉える。そして、「三輪スタンダードふかめる段階」において、それらの改革の中で廃藩置県をする必要があったのか、その必要性を追究することで、日本を一つにまとめようとする明治政府のねらいを捉えることができるようにする。最後に、「三輪スタンダードふりかえる段階」において、まとめを自分で書く時間を設け、本時の学びを自分の力で整理することができるようにする。その後まとめプラス1の時間を設け、振り返りの視点を提示して、自分の成長を言語化することで、学習における自分の成長を感じることができるようにする。

3 目標

- (1) 日本が明治維新を機に欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことについて理解するとともに、遺跡や文化財、地図や年表などの各種の基礎的資料を通して、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けることができるようにする。
(知識及び技能)
- (2) 明治時代の近代化の特色や出来事や人物の関連、意味を多角的に考える力、その時代の社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて自分ならどのように行動するか考える力、考えたことを説明したり、それらを基に議論したりできるようにする。
(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 明治時代の近代化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、我が国の歴史や伝統を大切に、国を愛する態度を育てる。
(学びに向かう力、人間性等)

4 指導計画（総時数 7時間） 本時⇒●

次	学習活動・内容	主 眼	三輪スタの活用方法
一 ⑦	① 浮世絵を見て江戸時代との町の様子の違いを調べて、政治や社会の仕組みの変化から新しい時代になったことを考え表現する。	○江戸時代と明治時代の町の様子の変化から調べ、新しい時代になったことを表現することができる。	三輪スタ（であう②） ・江戸時代と明治時代の町の様子を描いた浮世絵を比較し、違いを調べさせることによって、「町の様子が大きく変化した背景が政治や社会の変化にあるのではないか」という課題を持たせることができるようにする。
	② 黒船来航の際の様子や、外国と結んだ条約の内容を調べて、それらが、江戸幕府の政治や社会の仕組みに与えた影響を考える。	○黒船来航に対する幕府の対応や外国との条約の内容が、江戸幕府の政治や社会の仕組みに与えた影響を考え表現することができる。	三輪スタ（であう②） ・黒船来航の際の船の大きさを比較したり、当時の日本人が描いたペリーの似顔絵を提示したりし、外国の勢力との力の差があることに気づかせることによって、日本の政治の仕組みが大きく変わるきっかけとなったことがわかるようにする。
	③ 幕府に対する人々の不満の高まりや、新しい政治を目指す動きの強まりについて調べて、幕府が倒れた経緯を捉える。	○開国の影響や幕府の対応や、西郷、大久保、木戸らの働き、薩摩藩や長州藩の動きを関連付けて幕府が倒れた経緯を捉えることができる。	三輪スタ（つくる） ・開国によって起きた出来事に対する人々の思いを想像し、それらの共通点を見つけることによって、人々の江戸幕府に対する不満や不信感に気づかせることができるようにする。
	④ 明治政府が行った諸改革により社会がどう変化したかを調べて、明治政府がどのような国づくりを目指していたかをとらえる。	●明治政府が天皇中心の政治を進め、日本を一つの国へまとめようとしていたことを明治政府が行った諸改革と関連させて考え表現できる。	三輪スタ（つくる） ・江戸幕府が行ってきた政策と明治政府の諸改革を比較させることで、明治政府が天皇中心の政治を進め、外国の文化に学び、日本を一つの国へまとめようとしていたことを考えと理由に表現することができるようにする。
	⑤ 明治政府が行った富国強兵政策を調べて、欧米諸国に迫りつけるような国づくりを目指したことを捉える。	○地租改正や徴兵令、殖産興業等の富国強兵政策を進めたことと関連させ、明治政府が目指した国づくりについて捉えることができる。	三輪スタ（ふかめる） ・民衆の生活を苦しめてまで、富国強兵の政策を進めた意図について問うことで、日本は経済、技術、軍隊の全ての面において外国に遅れをとり、国を守るために全ての内容の改善が急務であったことをとらえることができるようにする。

	⑥ 人々の暮らしや町の様子の変化を調べることを通して、どのような西洋風の文化や考え方が取り入れられたかを知る。	○この頃に様々な西洋風の文化や考え方が取り入れられたことを捉えるとともにそれらは、現在の社会の基盤であることに気づくことができる。	三輪スタ（ふかめる） ・明治時代と現代の生活様式を比較させることによって、現在の社会の基盤がこの時代にできたことに気づくことができるようにする。
	⑦ 明治時代の新しい国づくりについての学習をまとめることを通して、日本の近代化がどのように進められたかを考える。	○明治政府の新しい国づくりが何を目指していたのかを明治政府が行った諸改革や政策と関連させて考え表現することができる。	三輪スタ（ふりかえる） ・明治政府の国づくりが何を目指したかという結論やその理由、具体例を考え表現させることによって、明治政府の政策と人々の暮らしや社会の変化を現代の生活と関連付けることができるようにする。

5 本時の授業評価指標（ルーブリック）

三輪スタンダードで重視する段階（つくる）			
江戸幕府が行ってきた政策と明治政府の諸改革を比較させることで、明治政府が天皇中心の政治を進め、外国の文化に学び、日本を一つの国へまとめようとしていたことを考えと理由に表現することができるようにする。			
評価項目	C	B	A
ねらいの達成状況	学習問題から、本時の学習のめあてをとらえることができる。	学習問題から、明治政府が行った三つの新しい改革を捉えることができる。	学習問題から、明治政府が行った三つの改革と「五カ条の御誓文」をつなげ、改革を行ったわけを考えることができる。
目指す子どもの姿（発言・行動など）	①明治政府は、改革を進めたのだな。 (発言、ノート)	①明治政府は、改革を進めたのだな。 ②版籍奉還、廃藩置県、身分制度を改めたのだな。 (発言、ノート)	①明治政府は、改革を進めたのだな。 ②版籍奉還、廃藩置県、身分制度を改めたのだな。 ③江戸時代よりも日本を一つにするために版籍奉還、廃藩置県、身分制度の改めをおこなったのだな。 (発言、ノート)

評定	評定の根拠	代案

6 本時案

(1) 主眼

- 明治政府が「五か条の御誓文」をもとに、天皇中心の新しい国づくりをめざし、「廃藩置県」によって、全国の支配地域を広げ、それらを直接支配し、日本を一つにまとめようとしたことを捉えることができるようにする。

(2) 日時 令和2年10月30日(金) 第5校時 於：第6学年○組教室

(3) 学習の展開 (45分)

	主な学習活動と内容	三輪スタの工夫	分
であ う	<p>1. 江戸時代に出された「武家諸法度」と明治政府が出した「五カ条の御誓文」を比較し、明治政府がどのような国づくりを進めたか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代は、幕府が支配していたが、明治政府は、天皇中心の国家をめざしている。 <p>明治政府は、天皇中心の国づくりをめざすためにどんな改革をしたのか調べよう。</p>	○明治政府が出した「五カ条の御誓文」と「武家諸法度」を提示することで、明治政府のめざした国づくりに注目することができるようにする。	⑧
つ く る	<p>2. 明治政府が行った新しい改革とその改革を行ったわけを調べよう。 考えをつくる活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 版籍奉還・・・領地・領民を天皇に返す (理由) →天皇中心の国づくりをめざしたから ・ 廃藩置県・・・藩を廃止し、県を置く (理由) →各県に政府の役人を送り、・・・? ・ 身分制度・・・職業や住む場所が自由、「解放令」 (理由) →よくないしきたりを改めたから <p>○廃藩置県は、する必要があったのかな</p>	◎明治政府が行った改革を提示することで、「天皇中心の国づくり」関連づけることができるようにする。	⑮
ふ か め る	<p>3. 天皇中心の国づくりを進めるために、本当に廃藩置県をする必要があったのか考える。</p> <p>〈事実〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 廃藩置県で、北海道と沖縄まで支配するようになった ・ 藩のときよりも、多くの県を配置できるようになった ・ 政府の役人を直接おくりこんだ。 <div style="display: flex; align-items: center; margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 200px;"> <p>【考え】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やはり廃藩置県は必要だった </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: 200px;"> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 江戸時代より広く、政府の役人をおくることができるようになったから (支配地域の拡大) ・ 政府の命令が直接伝わるから (直接支配できる) </div> </div>	○「本当に廃藩置県は必要だったのか」と問うことで、江戸時代の「大名配置図」や教科書の資料などから「廃藩置県」の必要性に迫ることができるようにする。	⑮
ふ り か え る	<p>4. 学びを振り返る活動を行う。</p> <p>(1) 本時の学習のまとめを自分で書き、全体で交流する。</p> <p>明治政府は、廃藩置県によって、全国を直接支配することで、日本を一つにまとめ、天皇中心の国づくりをめざした。</p> <p>(2) 課題解決できたことを中心に本時学習のふりかえりを記述する。</p>	○「明治政府は、廃藩置県によって、○○をめざした」という例文を提示することで、自分でまとめを書くことができるようにする。	⑦

